

稚魚の季節

■水の中も春

5月も半ばを過ぎ、水の中も本格的に春を迎えている。イシガレイの稚魚は順調に成長している。4月の調査では採集できた個体は8匹のみで平均全長は3.25cmであったが、今回は42匹を採集し、平均全長も5.14cmであった(Fig.1 Fig.2)。4月は導流堤の北側(干潟内)のみであったが、今回は導流堤南側でも採集することができた(Fig.3)。なお、Fig.1の中に白い個体がいるが、これは体色に異常がある個体で、イシガレイでは時折見られるものである(Fig.4)。ボラの稚魚も群れをなしており、干潟が生物のゆりかごとしての機能を発揮していると思われる(Fig.5)。

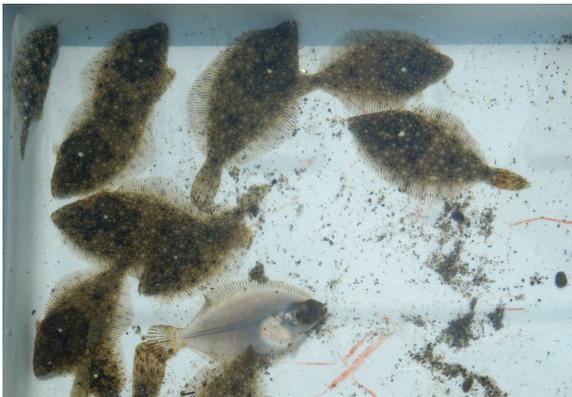


Fig.1 採集したイシガレイ



Fig.3 導流堤南側の採集地点



Fig.2 最大の個体



Fig.5 ボラの稚魚

■干潟全景

今回の調査では科学館ボランティア(サイエンスインタープリター)針生芳知氏の協力により上空からの干潟の全景を撮影することができた(Fig.6)。地形の変化などを明確に確認でき今後大きな力になるであろう。



Fig.4 体色異常の個体



Fig.6 蒲生干潟全景